

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	財務分析
目標年	2012年合格目標	科目②	
コース	1 次 直前対策セミナー	回 数	1 回

収録日	2011 年 12 月 12 日		
講師名	谷口 先生	講義録 枚数	1 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3 枚 (サイズ)

講義構成	講義（ 3 0 ）分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 . 無	枚	
備考			

証券アナリスト 講義録		科目 財務分析	コース 1次対策 直前セミナー	回数 /
-------------	--	------------	-----------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり []	なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 谷口 先生
	★実力テスト：あり []	なし		
	◇配布物なし			

テキスト ページ	黒 板 内 容
	○ 学習の範囲 企業活動 会計処理 → 財務諸表 (B/S, P/L) ※ ルール 分析 35% 株式価値評価 10% 55%

(1次) 財務分析

1. 出題分析 (全体)

全問マークシート方式の選択問題で、解答数は 60 問弱となっています。60%以上の得点を効率よく積み重ねるためには、出題傾向が安定している第 4 問の財務分析問題で、まとまった得点の確保を目指す必要があると思われます。また、第 1 問の正誤選択問題は、第 2 問、第 3 問の計算問題（会計処理等）の知識から正答を得られるケースも多いため、相互に関連付けた学習が効果的でしょう。

図表：財務分析大問別の配点

	H21 春	H21 秋	H22 春	H22 秋	H23 春	H23 秋
第1問 正誤選択問題	32	30	34	32	34	34
第2問 計算問題	14	16	12	14	12	10
第3問	18	18	18	18	18	20
第4問 財務分析問題	26	26	26	26	26	26

計 90 点

2. 大問別出題分析

(1) 第 1 問 正誤選択問題

正誤選択問題では、特定の分野に偏ることなく幅広い出題が見られます。出題範囲すべての習得は負担が大きいため、まずは頻出論点の習得を優先させてください。

平成 22 年秋 (32 点)	平成 23 年春 (34 点)	平成 23 年秋 (34 点)
①開示制度	①会計制度	①会計監査
②B / S	②会計監査	②貸借一致
③包括利益	③流動固定の分類	③連結 F / S
④株主資本	④連結 C / S	④負債会計
⑤損益認識	⑤連結会計	⑤繰延資産
⑥収益認識基準	⑥利益計算	⑥連結会計
⑦その他有価証券	⑦包括利益	⑦利益計算
⑧資産評価	⑧CF と損益	⑧収益認識
⑨リース会計	⑨工事進行基準	⑨営業外費用
⑩連結財務諸表	⑩棚卸資産の評価	⑩棚卸資産の評価
⑪退職給付会計	⑪減価償却	⑪棚卸資産の原価配分
⑫税効果会計	⑫貸倒見積高の算定	⑫減損会計
⑬生産性分析	⑬退職給付会計	⑬時価評価
⑭企業評価のステップ	⑭在外支店	⑭外貨換算
⑮配当割引モデル	⑮ファイナンス・リース	⑮ファイナンス・リース
⑯割引CFモデル	⑯税効果会計	⑯百分率 F / S
	⑰サステイナブル成長率	⑰残余利益

(2) 第2問 個別計算問題

繰り返し出題される論点も多く、過去の出題と同様の計算手順で解答できる問題も多いため、特に過去の出題論点の反復練習が有効です。

平成 22 年秋 (14 点)	平成 23 年春 (12 点)	平成 23 年秋 (10 点)
問 1 工事契約	問 1 株主資本	問 1 連結 P / L
問 2 減損会計	問 2 工事契約	問 2 減損会計
問 3 退職給付会計	問 3 棚卸資産の原価配分	問 3 外貨換算
問 4 資本利益率の分解	問 4 減価償却 (250%定率法)	問 4 株式価値評価
問 5 株主に帰属する FCF	問 5 減損会計	問 5 PVGO
問 6 残余利益	問 6 税効果会計	
問 7 定率成長モデル		

(3) 第3問 総合計算問題

第3問の総合計算問題は、第2問に比較し難易度が高い傾向のため、解法の不明な問題等に深入りしない注意が必要です。ただし、全ての設問の難易度が高い訳ではないため、容易に解答可能な論点は積極的に解答する必要があります。

平成 22 年秋 (18 点)	平成 23 年春 (18 点)	平成 23 年秋 (20 点)
I 有価証券の会計処理	I 有価証券の会計処理	I 減損会計
問 1 期末評価額	問 1 期末評価額	問 1 固定資産の減損
問 2 期末評価損益	問 2 期末評価損益	問 2 有価証券の減損
問 3 期末評価損益	問 3 強制評価減	問 3 CF 見積法
II リース会計	II 企業結合会計	II その他有価証券の会計処理
問 1 現在価値基準	問 1 パーチェス法	問 1 期末評価損益
問 2 リース債務計上額	問 2 全面時価評価法	問 2 税効果額
問 3 リース債務減少額	問 3 持分プーリング法	問 3 税効果額
III 損益分岐点分析	III 株式価値評価	III 退職給付会計
問 1 損益分岐点売上高	問 1 FCFE	問 1 割引率
問 2 実際売上高	問 2 残余利益	問 2 退職給付債務
問 3 営業レバレッジ	問 3 株主資本の内在価値	問 3 退職給付費用
		問 4 数理計算上の差異

(4) 第4問 分析総合問題

分析総合問題は、1次試験の全配点の30%弱を占めており、その出来不出来が合否に直結すると考えられます。収益性分析と安全性分析を中心とした出題で、出題される財務指標も安定しているため、正誤選択や計算問題よりも、得点を伸ばしやすいと言えます。ただし、問題文や財務諸表など与えられる資料が非常に多いことから、限られた時間で効率よく解答を導き出すための対策が必要となります。

具体的な対策としては、過去の問題等を使用した、定期的な反復練習が有効となります。繰り返し問題を解く中で、基本テキスト等を活用し、頻出の財務指標を中心に、その計算式とそれぞれの指標が意味する内容の習得を図ってください。適切な財務指標の選択を素早く行うためには、それぞれの財務指標の意味する内容を知っている必要があります。また、財務諸表から必要な数値を素早く取り出すためには、計算式を正確に記憶していることが必要です。

正確さに加え速さも要求されていることを念頭に、準備を進めることが重要です。

平成22年秋 (26点)	平成23年春 (26点)	平成23年秋 (26点)
(連結、時系列、電気)	(連結、クロス、航空業)	(連結、時系列、機械装置製造業)
(1) 資本利益率 ROE (3指標分解)	(1) 資本利益率 ROE (3指標分解)	(1) 資本利益率 経営資本営業利益率 (2指標分解)
(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書	(2) 売上高利益率の分析 百分率損益計算書
(3) 損益分岐点分析 固定費の額 損益分岐点売上高 損益分岐点比率	(3) 損益分岐点分析 損益分岐点売上高 損益分岐点比率	(3) 損益分岐点分析 損益分岐点売上高 損益分岐点比率
(4) 資本回転率等の分析 売上債権回転期間 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率 手元流動性比率	(4) 資本回転率等の分析 手元流動性比率 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率	(4) 資本回転率等の分析 棚卸資産回転期間 有形固定資産回転率 売上債権回転期間
(5) 安全性分析 当座比率 自己資本比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ	(5) 安全性分析 自己資本比率 当座比率 固定長期適合率 インタレスト・カバレッジ・レシオ	(5) 安全性分析 当座比率 自己資本比率 固定比率 インタレスト・カバレッジ・レシオ